

資料 1

# 第1回合同会議の振り返り

2021年2月24日(水)

株式会社野村総合研究所  
社会システムコンサルティング部

部長 神尾 文彦

100-0004  
東京都千代田区大手町1-9-2 大手町フィナンシャルシティ  
グランキューブ

## 加工食品物流ガイドラインでは、ドライバーの労働環境改善の改善を目的に、荷待ち時間、荷役時間、検品時間削減のための各種施策を提起。

### ガイドライン策定の経緯

- **「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」**により、自動車の運転業務についても、時間外労働について罰則付きの上限規制(年960時間)が令和6年4月1日から適用されることとなった。しかし、労働基準関係法令や「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」(改善基準告示)の違反が高水準で推移する中で、現状のままでは、上限規制を遵守しながら現在と同水準の物流を確保することは困難と考られている。
- その一環として国は、**「トラック輸送における取引環境・労働時間改善中央協議会」**を設置し、実証実験を実施し、その成果を**「荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン」**として取りまとめ、**「ホワイト物流」推進運動セミナー**等の場で周知を行っている。
- このような取り組みに加えて、荷待ち時間の件数が特に多かった輸送分野(加工食品、建設資材、紙・パルプの3分野)について、**「物流における生産性向上及びトラックドライバーの労働時間改善に関する懇談会」**を開催し、それぞれの輸送分野特有の課題の洗い出しや、実証実験、実態調査等を踏まえた解決方策の検討を行った成果として、**「荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン 加工食品物流編」**、「同 建設資材物流編」、「同 紙・パルプ(洋紙・板紙分野)物流編」、「同 紙・パルプ(家庭紙分野)物流編」を取りまとめた。
- 今回検討の対象となった各輸送分野の関係者は運送事業の現状を喫緊の課題と捉え、このガイドラインを参考に、荷主とトラック運送事業者が自主的・積極的に取引環境と長時間労働の改善に向けて取り組むことが期待される。

### 加工食品物流ガイドラインにおいて提示した施策

分類	詳細
受発注条件の見直し	全般(契約内容の書面化や運賃及び料金の適正支払い等)
	リードタイム延長
	波動の平準化
	需給調整在庫の確保
荷待ち時間の削減	先着順から予約制への変更
	時間指定の柔軟化
荷役時間の削減	バラ積み貨物のパレット化
	パレットサイズ等の輸送容器の統一
	外装段ボールサイズの見直し
検品時間の削減	3分の1ルールの見直し徹底
	年月日表記から年月表記への変更
	事前出荷情報の提供とQRコード等への情報の組み込み
	統一伝票や段ボールなどへの表記の標準化

## 加工食品物流に関するこれまでの議論の振り返り(資料2)

『加工食品分野における物流標準化アクションプラン』では、サプライチェーン全体の効率化を目的に、納品伝票、外装表示、外装サイズ、コード・用語の標準化の必要性を提起。

### アクションプラン策定の経緯

- 平成29年7月に今後の政府における物流施策や物流行政の指針を示す「総合物流施策大綱2017年度～2020年度」が策定され、関係省庁の連携による総合的・一体的な施策の推進が図られている。総合物流施策大綱では、物流の生産性の大幅な向上を図ることにより、ニーズの変化に的確に対応し、効率的・持続的・安定的に機能を発揮する「強い物流」の実現に向け6つの視点から取組を進めることとしている。
- 6つの視点の1つである「繋がる」において、サプライチェーン全体の効率化・価値創造に資するとともにそれ自体が高い付加価値を生み出す物流への変革を図る方法として、事業者間でのデータの標準化や共有化、システム仕様の標準化、重複入力項目の削減等によるデータの受渡しの円滑化・迅速化や受渡しコストの低減、荷役の効率化、トラック稼働率の向上等による物流の効率化に資するパレット化や運搬容器等の形状や印字位置等の標準化に関して、デザイン・フォー・ロジスティクス(DFL)の観点も踏まえて、官民の枠組みで検討を行うこととされている。
- 本アクションプランは、加工食品分野における標準化に向けた課題・問題点、解決方を整理し、サプライチェーン上の個社と各プレイヤーの枠を超えて全体最適の視点から標準化を実現する手順をまとめたものである。今後、加工食品分野のサプライチェーンを構成する各プレイヤーが本アクションプランに則り、協調して物流の標準化を進めていくことが望まれる。これにより、物流現場の自動化・機械化等が促進され、また、作業の効率化・単純化により働きやすい環境が整備され、その結果、加工食品の物流現場が多様な人材に魅力的で「選ばれる」職種として変革し、加工食品物流がさらに持続可能なものとなることが期待される。

### 加工食品物流標準化アクションプランにおいて提示した方向性

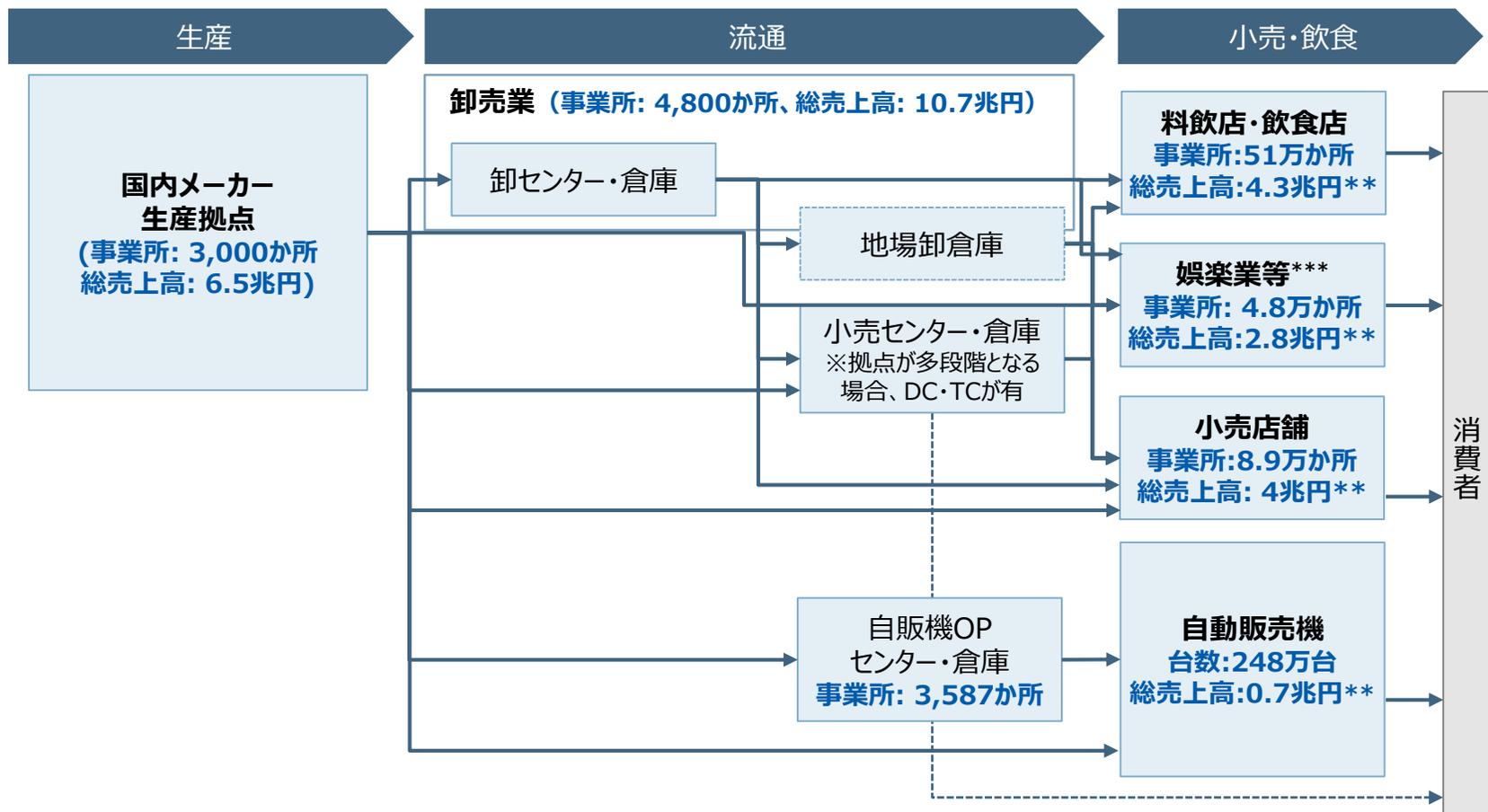
対象	概要
納品伝票	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 納品伝票は各社が独自に必要項目を設計してきており、その結果、伝票サイズや複写枚数、記載内容が異なっている。</li> <li>➤ そのため、最終的には電子化を目標とするが、電子化を前提に効率化を検討し、納品伝票の標準化を行い事務作業や検品作業等の負荷軽減を図る。</li> </ul>
外装表示	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ メーカーごと、商品ごとに外装表示は、表示内容や表示位置、文字フォント等が異なっており、作業の長時間化やミス要因となっている。</li> <li>➤ そのため、外装表示の表示内容や表示位置等を標準化することにより、視認性や読み取りの容易性を高め商品の仕分けや検品時の作業効率向上を図る。</li> </ul>
パレット・外装サイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 外装サイズは、商品ごとにサイズが異なっており、その結果、積み合わせ時のパレットへの積載効率が低く、輸配送効率や保管効率が大きく損なわれている場合が多くみられる。</li> <li>➤ そのため、積載効率を向上させるには、パレットサイズや物流倉庫の保管棚の高さ等を考慮した標準的な外装サイズへの見直しが必要と考えられる。</li> </ul>
コード体系・物流用語	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 各社がこれまで独自に構築してきたこれらの仕組みと運用を民間事業者のみで統一することは困難である。</li> <li>➤ そこで、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「スマート物流サービス」にて構築する予定の物流・商流データ基盤において、そのデータ基盤上で使用するコード体系や物流用語等の標準化を予定。</li> </ul>

## 飲料・酒物流の現状及び課題(資料3)

# 飲料・酒物流の流通構造について

- 流通構造と、各プレイヤーの規模（事業所数・売上高）を経済センサス（平成28年度）から取得した。

飲料・酒物流の流通構造



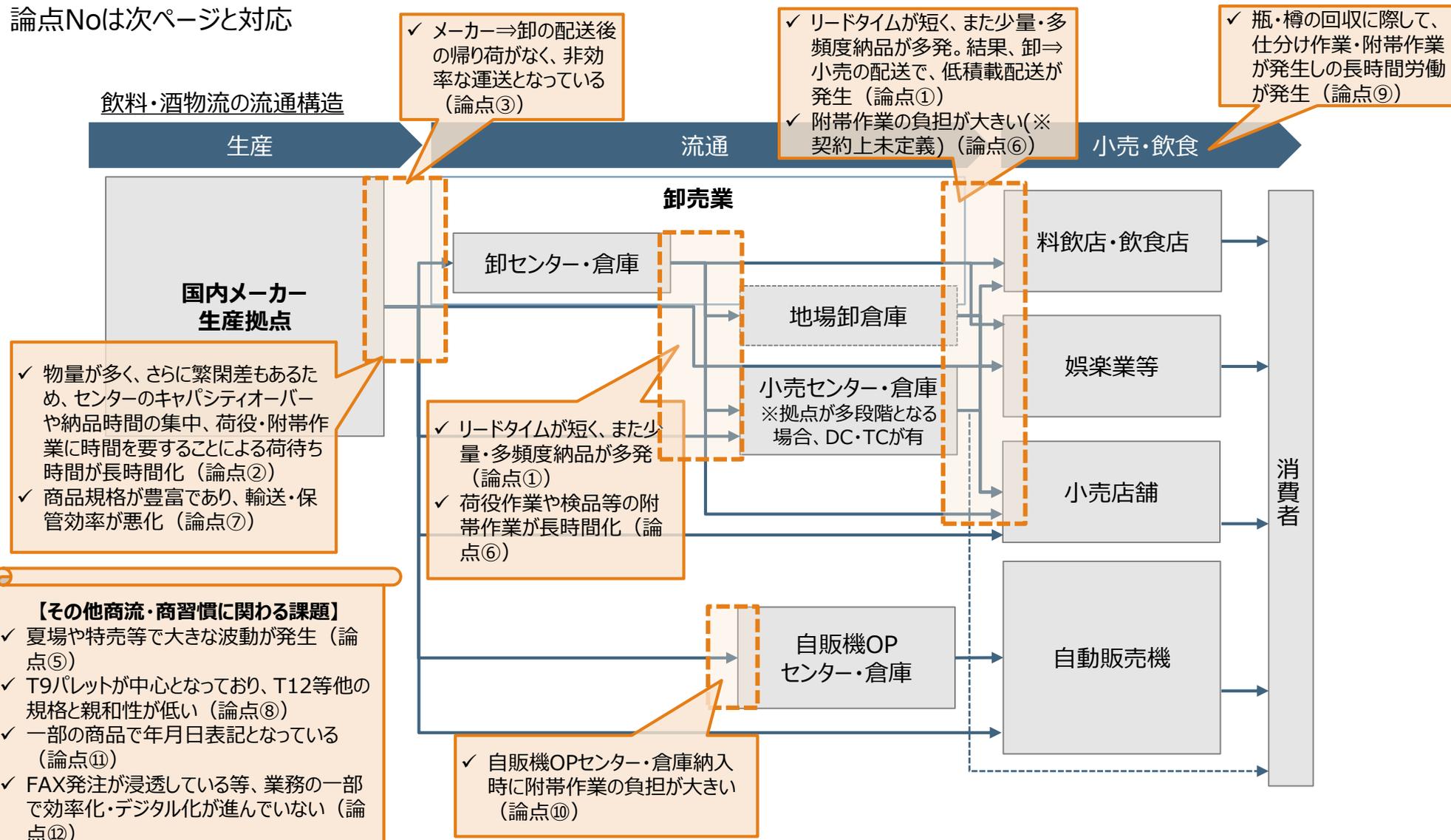
\*EC・直販等、店舗外の流通

\*\*小売り・飲食は、出所データを基にNRIが飲料・酒の売上高を推定。

\*\*\*映画館、遊園地、ボウリング場、カラオケボックス業等

# 飲料・酒物流の課題について

■ 論点Noは次ページと対応



## 飲料・酒物流の現状及び課題(資料3)

# 本合同会議で検討すべき飲料・酒物流の課題及び解決の方向性について整理。

No	分類	現状・課題	解決の方向性に係る論点
1	発注ルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>リードタイムが短く、また少量・多頻度納品が多発。結果、実車率・積載効率の悪化に繋がっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工食品物流ガイドラインで提示した方向性に沿って引き続き取組みを実施</li> </ul>
2	納品時間・荷待ち時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>物量が多く、さらに繁閑差もあるため、センターのキャパシティオーバーや納品時間の集中、荷役・附帯作業に時間を要することによる荷待ち時間が長時間化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予約受付システムの導入や検品作業の効率化により、納品時間の管理を実施</li> </ul>
3	帰り荷の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>メーカーから卸への配送後は、一部回収した空容器等の荷物はあまるものの、空車で回送することが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メーカー・卸で車両の相互活用に向けた取組みを実施</li> </ul>
4	共同輸送	<ul style="list-style-type: none"> <li>異業種による幹線輸送の共同配送実施により積載率を向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幹線輸送におけるマッチングの取組みを推進</li> </ul>
5	季節・繁閑波動	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節及び繁閑の波動（夏・繁、冬・閑等）が激しく、トラックの荷待ち時間の長期化、実車率・積載効率の悪化に繋がっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予約受付システムの導入に併せ、波動の大きな商品の入庫を後ろに設定することで他商品の荷待ち時間を削減</li> </ul>
6	附帯作業（卸・小売物流）	<ul style="list-style-type: none"> <li>卸・小売への配送時に附帯作業が発生し、トラックドライバーの長時間労働に繋がっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲料・酒物流に関する附帯作業の業務内容及び所要時間を可視化し、荷主と役割分担の明確化等を検討</li> <li>ビール業界で一部実施されている附帯業務の料金化を実施</li> </ul>
7	商品規格	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品規格が豊富であり、輸送・保管効率が悪化。一方、近年は缶容器の導入により保管効率向上に繋がる事例も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カートンサイズの統一</li> <li>物流を考慮した外装・梱包サイズ的设计DFLを推進*</li> </ul>
8	パレット規格	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲食・酒物流ではT9型パレットが主流となっており、T12型等ほかのパレット規格との親和性が低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲料・酒については引き続きT9型の利用を推奨。加工食品で利用されているT11型、T12型も念頭に置いた庫内運用を推進</li> </ul>
9	静脈物流	<ul style="list-style-type: none"> <li>瓶・樽の回収に際して、仕分け作業・附帯作業が発生しの長時間労働に繋がっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>料飲店等からの回収時の仕分け・附帯作業を削減。商品・回収容器の読み取り・管理の自動化により作業効率化を推進</li> </ul>
10	附帯作業（自動販売機）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自販機OPセンター・倉庫納入時に附帯作業の負担が大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動販売機OP拠点における附帯作業の内容及び所要時間を可視化し、荷主と役割分担の明確化等を検討</li> </ul>
11	年月表記	<ul style="list-style-type: none"> <li>賞味期限や製造日付が年月表記に移行しているが、一部のメーカー・商品に留まっているため、作業に時間を要している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業界全体に年月表記を普及させ、検品や先入先出作業の効率化を促進</li> </ul>
12	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>業界としてFAX発注が主流となっており、デジタル化の推進が遅滞</li> <li>VMI倉庫の管理主体が曖昧であるため在庫管理が行えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業界を通じた取組み改善の方針を策定</li> </ul>

## 加工食品懇談会の成果を踏まえつつ、本合同会議で取り扱う論点を検討。

- 本合同会議では、加工食品懇談会の成果を踏まえ、①飲料・酒物流特有の論点、②加工食品懇談会の成果を深掘すべき論点、③新たに検討を開始すべき論点の3つの論点を検討。
- ①、②については実証実験の実施により定量的な効果や進め方のポイントを明確化にする。②、③については合同会議での議論を中心に意見提言・コラム執筆による取りまとめを行う。最終的な成果を加工食品懇談会のガイドラインに追記する。

### 本合同会議で検討すべき論点及びとりまとめの方針について

論点の タイプ	① 飲料・酒物流特有の論点	②加工食品懇談会の成果を 深掘すべき論点	③ 新たに検討すべき論点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 季節波動を含む繁閑差の調整</li> <li>✓ 飲料・酒物流に特有な附帯作業の実態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ リードタイムの延長</li> <li>✓ ASN連携による待機時間・附帯作業時間の削減</li> <li>✓ 年月日表記から年月表記への移行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ DFLの推進</li> <li>✓ 業界全体のデジタル化の遅れ</li> </ul>
	<b>実証実験の実施</b>		<b>懇談会での議論・提言</b>
とりまとめ の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 車両の相互活用による繁閑対応【論点③】</li> <li>✓ 飲料・酒業界の附帯作業の見える化【論点⑥、⑩】</li> <li>✓ 出荷情報の事前共有による検品作業削減【論点②】</li> <li>✓ 年月表記への移行の効果【論点⑪】</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 商流・商習慣起因による物流課題の発生（リードタイムの延長、附帯作業のサービス化等）【論点①、②、⑤】</li> <li>✓ 商品及び輸送容器の規格について【論点⑦、⑧】</li> <li>✓ 静脈物流の効率化について【論点⑨】</li> <li>✓ 業務のデジタル化の遅れ等【論点⑫】</li> </ul>

加工食品物流ガイドラインへの追加

## 実証実験の概要(資料4)

**本事業において実施する実証実験について、課題の妥当性及び実現可能性に鑑み、計5テーマを選定。(※検討状況に応じ実施可否は変更になる可能性有)**

	テーマ	背景・課題	事業内容
①	出荷情報の事前共有によるノー検品	製造者・卸の配送に際し、卸拠点で荷待ち時間が発生している。検品作業等が荷待ち時間の要因の一つとなる中、製造者・卸間で出荷情報を事前共有する等の取組みが求められている。	製造者から卸事業者への配送に際し、出荷情報を事前に共有し、検品作業を省略(ノー検品)。これにより、トラック滞留時間の削減効果などを測定する。
②	年月日表記と年月表記の作業比較・検討	一部の商品製造者では、賞味期限や製造年月日を年月表記に移行しているが、一部の商品は年月日のままとなっている。年月日表記から年月表記にすることで格納・補充・受付の作業削減を図ることが可能となる。	年月表記への切り替えによる軽減作業および作業時間を計測し、年月表記への切り替え効果を測定する。
③	附帯作業の見える化(自動販売機)	自販機オペレーター拠点では、荷卸し・先入先出等多種の附帯作業が実施されている一方、実施内容などの実態が把握出来ていない。	自販機OP拠点での附帯作業を整理し、附帯作業に掛かる時間を計測することでドライバーが実施の作業内容の見える化を行う。
④	附帯作業の見える化(小売・料飲店配送)	小売配送時、トラックドライバーが横持ち・縦持ち・先入先出等の附帯作業を実施している一方、実施内容などの実態が把握出来ていない。	滞在時間の長い着荷主拠点の把握とともに、小売店・料飲店配送時に行われている附帯作業の見える化を推進する。
⑤	車輛の共同活用	メーカー手配の卸への納品車輛や、卸手配の小売りへの納品車輛は納品後、空車・低積載で発地拠点へ戻ることが多く、車輛の効率化が必要となっている。	大型車輛での納品が主流となっているメーカー・卸間の配送に際し、相互契約の実施による定時運行・ルート化を通じた帰り荷の安定化を推進する。